

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 復興支援－36

学校名・団体名	筑北村立聖南中学校
HPアドレス	<a href="https://www.ptcnet.jp/chikuhoku/DATA/BBS/sei-nan/epa5002015092979323795/epa5002015092979323795.htm">https://www.ptcnet.jp/chikuhoku/DATA/BBS/sei-nan/epa5002015092979323795/epa5002015092979323795.htm</a>
コース	学校支援
活動・研究テーマ	被災地訪問、復興ボランティアから学ぶ
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「被災地訪問」を通して、何ができるか考え行動に移すことで、少しでも被災者の方々を励まし元気づける。</li><li>・「被災地訪問」を通して、被災地の方々の思いや生き方に触れることで、自然への畏敬と命、家族、ふるさとの尊さを学ぶ。</li><li>・被災地の復興に向けて、自分ができることを考えて、実践していこうとする態度を養う。</li></ul>	

## 平成27年度「被災地訪問」

期 日 9月12日(土)～13日(日)

参加人数 生徒41名(吹奏楽部15名 ボランティアチーム12名 男子バスケット部14名)  
保護者11名 きささげ応援団3名 村関係者3名 職員7名 計65名

訪問先 宮城県南三陸町(戸倉地区・志津川地区・歌津地区)

現地協力者 後藤一磨さん(南三陸町戸倉仮設住宅在住、語り部ガイド、復興町づくり推進委員)他

### 1 活動内容

#### (1) 4年目を迎えた、宮城県南三陸町への「被災地訪問」に向けて

○今までの「被災地訪問」をもとに、被災地の方々へ「元気を届ける」ために何ができるか考え、準備を進めた。主な新たな活動は次の通り。

- ①「被災地訪問新聞」の発行。(「被災地訪問」への思い、準備状況等の紹介をし、被災地訪問への意識を高めた。)
- ②南三陸町産の海産物販売。(村の福祉祭りの会場で、取り寄せた海産物を販売し、売上金18,040円を「被災地訪問」の際、南三陸町に支援金として届けた。)
- ③郷土の筑北米を使った「おかき作り」。(地域の方と一緒に「おかき作り」を行い、「被災地訪問」での交流時、被災地の方々に味わっていただいた。)
- ④信州型コミュニティスクール「きささげ応援団(生徒の活動を支援する、保護者地域の方々)」への協力の要請。(各チームが現地で活動する際、大人の力が必要なことに関して、生徒から説明と協力の依頼を行った。)

#### (2) 宮城県南三陸町への「被災地訪問」

○各チーム、被災地の方々へ「元気を届ける」ことを目標に、交流を行った。

<1日目>

吹奏楽部—南三陸町戸倉地区の仮設住宅(旧戸倉中学校)にて、1回目の訪問演奏。その後、仮設住宅の方々との交流。志津川地区の「さんさん商店街」にて2回目の訪問演奏。

ボランティアチーム—3つの班に分かれて交流活動。

- ・南三陸町戸倉の仮設住宅にて「おかき」と、筑北村の郷土食「やしょうま」を振る舞う。
- ・仮設住宅にお住まいの方や、吹奏楽部の演奏を聴きに來てくださった方へ、ハンドマッサージを実施。
- ・仮設住宅の子どもたちと一緒に遊び、交流。

男子バスケット部—志津川中学校男子バスケット部と交流試合、交流会を行う。

※全員で、後藤一磨さんの案内の元、「防災対策庁舎」「高野会館(結婚式場)」を見学。

<2日目>

吹奏楽部—宿泊先「高倉荘」さん(歌津地区)の駐車場にて、3回目の訪問演奏。

ボランティアチーム—3つの班に分かれて交流活動。

※宿泊先「高倉荘」さん駐車場にて、前日と同内容の交流活動。

男子バスケット部—宿泊先「清観荘」さんご主人(漁師)との交流と奉仕作業(わかめ養殖用ロープの手入れ)。

#### (3) 「被災地訪問報告会」の実施

期 日 11月27日(金)

対 象 全校、保護者地域の方

### 2 成果と今後に向けて

被災者の方に「元気を届けたい」という生徒たちの願いから始まった本校「被災地訪問」も、今年で4年目を迎えた。初年の吹奏楽部による訪問演奏では、「元気を届ける」つもりが、被災者の方々の前を向いて生きていこうとする姿や、ふるさとへの深い思いに触れ、逆に「元気をいただく」訪問となった。感受性の強い中学生にとってこの「被災地訪問」は、自然への畏怖、命・家族・ふるさとの尊さを学ぶ場となると同時に、当たり前な日常がいかにありがたいものかに気づく機会にもなっている。

毎年訪れている訪問先では顔見知りの方も増え、名前でも呼び合う間柄の方もいる。生徒たちも回を重ねるごとに被災地の方々とのつながりを感じ、次の年も再び会いに行きたいと思っている。参加生徒も増え保護者地域の方たちの理解・協力も広がっている。被災地の方々とのつながりも回を重ねるごと強くなっているように感じる。本年度は、今までの「被災地訪問」をもとに、生徒自らが主体となって準備、活動を行ってきた。毎年全校で取り組んでいる「絆君」「芝刈り君」(メッセージ付きのマスコット)作りに加え、「元気を届ける」新たな活動として、校内向けへの通信の発行、福祉施設での南三陸町産の海産物の販売、地域の方との「おかき作り」、被災地での交流の場の設定や運営等、自分たちで率先して取り組み、内容も充実したものとなった。生徒の被災地に寄せる思いが深まっただけでなく、更に自主性や実践力がついてきたように

思われる。

そんな生徒たちの願いを知った地域の方が、「生徒さんの力になりたい。」と、被災者の方に味わってもらえるよう、郷土食である「やしょうま」を作ってくださいました。また、当日同行した保護者や「きささげ応援団」、村関係者の方も、積極的に被災者の方たちの話を聞いたり、生徒と共に歌を歌ったりと、「元気を届ける」活動に加わる姿があり、生徒たちの「被災地訪問」への願いを十分理解し、協力していこうとする意識が伺えた。

これからも、本校生徒の被災地へ寄せる願いや思いを大事に、そして本校の訪問を毎年待っていてくださる南三陸町の方々のために、「元気を届ける被災地訪問」を続けていきたい。

